

大衆に白す 堂頭和尚 般涅槃に入る
是の日已に過ぐれば命も亦た随つて
減ず 少水の魚の如し 斯に何の樂か
有らん衆等当に勤めて精進して頭然を
救すが如くすべし 但だ無常を念じて
慎んで放逸なること勿かれ 恭しく
大衆を寄めて龕幃に肅詣して万徳の
洪名を誦持して品位を増崇し奉る

仰憑大衆念

上来念誦諷經する功德は 新示寂

の為に

し奉る伏して願わくは願力を忘れず 再び曇華を現じ
慈航を生死の逝波に棹さし 群迷を菩提の彼岸に接
せんことを再び大衆を勞して念ず 十方云々